

会 議 録

- 1 会議名 令和4年度 第1回山形市清掃問題審議会
- 2 開催日時 令和4年7月11日（月） 午後1時30分から午後2時30分
- 3 開催場所 山形市役所7階 701AB会議室
- 4 次 第
 - (1) 開 会
 - (2) 審議会委員の紹介
 - (3) 会長・副会長の選出について
 - (4) 議事録署名人の選出
 - (5) 報告等
 - ・山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和3年度の進捗状況について
 - ・次期山形市一般廃棄物処理基本計画の策定について
 - (6) その他
 - (7) 閉会
- 5 出席者
 - 【委員】 國方委員（会長）、山川委員、新藤委員、金澤委員（副会長）、福島委員、高見委員、原田泰浩氏（笹渕委員代理）、佐藤委員、吉田委員、大場委員
 - 【幹事】 環境部長、環境課長、廃棄物指導課長、ごみ減量推進課長
 - 【書記】 ごみ減量推進課課長補佐、ごみ減量推進課循環型社会計画係長、減量推進係員（代理）、分別収集係長、循環型社会計画係員
 - 【生活排水処理基本計画関係】
廃棄物指導課課長補佐、廃棄物指導課一般廃棄物係長、一般廃棄物係員
- 6 傍聴者数
一般傍聴者数 0名 記者数 0名
- 7 資 料
(別添資料1) 山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和3年度の進捗状況について
(別添資料2) 山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値と令和3年度実績値
(別添資料3) 次期山形市一般廃棄物処理基本計画の策定について
- 8 内 容 (3)～(6)
 - ・國方会長挨拶
(コロナ禍で審議会を開催できない状況が続いたが、今回の審議会で見解を頂戴したい。
コロナ禍、巣ごもりにより粗大ごみの増加やテイクアウトの需要が活発になるなど、清掃問題

へも様々な影響があった。コロナにどのように対応し、どういった形で付き合っていくのが重要と考える。また一方で、6月に猛暑日が続くなど環境問題にも配慮しながら、清掃問題も対処していかなければならない。）

・金澤副会長挨拶

・議事録署名人として、会長及び会長より指名された山川委員が選出された。

・議長は会長が行った。

・(5) 報告等について、ごみ減量推進課長が資料に基づき説明を行った。

以下、質疑応答及び議事経過

・山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和3年度の進捗状況について

| 発言者 | 発言要旨 |
|------|--|
| 事務局 | 資料に基づき説明。 |
| 大場委員 | <p>①「市民一人一日あたりの家庭系ごみの量」であるが、参考として他市町村や他県との比較が出来るものはあるか。山形市の立ち位置が分からない。</p> <p>②市民は、プラスチックを分別しているため、可能な限りリサイクルして欲しいと考えている。一方で中国の廃プラスチックの受け入れをストップしている関係でプラスチック類が焼却に回っているものが多いとも聞く。山形市のプラスチックの処理方法を知りたい。</p> |
| 事務局 | <p>①県で公表している「令和3年度版山形県循環型社会白書」に令和2年度の実績があるが、山形市は多い順で12番目の560gである。一番多いのは庄内町の714g、一番少ないのは東根市の435gである。</p> <p>また、環境省の調査の「一般廃棄物処理実態調査」にも令和2年度の実績があるが、東北管内9都市（県庁所在地及び中核市）の中で、多い順で6番目であり、一番多いのは福島市の707g、一番少ないのは盛岡市の493gである。</p> <p>しかし、どちらも山形市と計算方法は異なり、数値が異なるため参考までとなる。</p> |
| 議長 | 比較する際に非常に難しいのが、生活スタイルが異なることが考えられるが、こういった内容も踏まえて、どのような比較の出し方がいいのか検討して欲しい。 |
| 事務局 | <p>②プラスチックは現在焼却している。理由としては、もやせるごみとプラスチック類が増加した場合、もやせるごみの処理を優先するため、分別している。</p> <p>また、プラスチック資源循環促進法の観点からも将来的なことを考え、分別している。</p> |
| 大場委員 | 市民目線としては、やはり分別しているからにはリサイクルしているだろうと期待感を込めて分別している。エネルギーを回収しているのは分かるが、焼却処分せざるを得ない事情を知りたい。 |
| 新藤委員 | <p>少しプラスチック類が入っていた方が燃焼効果が上がると聞いている。</p> <p>「一般廃棄物処理実態調査」の令和元年度実績では、東北6県では山形県が一番排</p> |

| | |
|---------|--|
| | 出量が少ない。県内では鮭川村、白鷹町、飯豊町が少ない。 |
| 事務局 | <p>エネルギー回収施設については山形環境広域事務組合が所管し運営している。施設建設にあたっては、環境負荷や経済性など様々な検討があったが、プラスチックについては焼却処理し、サーマルリサイクルとすることとされた。焼却ごみを燃やすにあたって、ごみカロリーの高いプラスチックを一緒に焼却処理しているが、水分が多い時期等は灯油等を足し焼却している。焼却する際に発生する熱エネルギーは、温水や発電に利用するサーマルリサイクルを行っている。</p> <p>令和4年4月にプラスチック資源循環促進法が施行され、マテリアルリサイクルが推奨されている。現在は全量焼却処理しているが、将来的には何らかの対策を取り、マテリアルリサイクルの検討が必要である。そのような観点からも市民の皆様には分別を継続していただいている。</p> |
| 金澤委員 | <p>白鷹町は少ないが、以前聞いた際に生ごみが家庭系ごみの19%程度と聞いた。山形市は半分程度である。それは、ごみに出さず、肥料化を目的に畑に埋めているということで、都市化が進む地域では同じようにはならない。</p> <p>デリバリーピザ等の箱は食品が付着しているためリサイクルすることが出来ない。ここ3年はテイクアウトが増加している等、新型コロナウイルスの影響により異常な状況である。</p> |
| 議長 | 地域によってライフスタイルが異なる。山形市とほぼ同じような人口やライフスタイルの地域を選定すれば比較しやすいのではないかと思いますので、検討をよろしくお願いしたい。 |
| 原田氏（県） | <p>他市町村との比較であるが、最新版で「循環型社会白書」の令和2年度実績を令和4年3月に公表しているため、ホームページからも見る事が出来る。</p> <p>最終処分量の減量とあったが、直接埋立としている物の内訳を知りたい。</p> |
| 事務局 | 埋立ごみ（ガラスや陶器）、エネルギー回収施設（立谷川・川口）から排出される溶融飛灰処理物及び不適物、クリーンセンターから排出される除砂である。 |
| 大場委員 | 最終処分量は減量しているのが分かるが、最終処分場の残余年数は？ |
| 廃棄物指導課長 | 上野最終処分場については、二期工事の整備事業を進めており令和9年度の供用開始を目指している。現在の埋立容量50万m ³ から75万m ³ に増やす計画である。この整備計画が終了すると、現在の埋立量での推計で令和24年度まで使用できる。 |

・次期山形市一般廃棄物処理基本計画の策定について

| 発言者 | 発言要旨 |
|------|---|
| 事務局 | 資料に基づき説明。 |
| 高見委員 | 様々な会議に出席しているが、計画の策定となるとSDGsが資料に盛り込まれていることが多い。盛り込む予定はあるのか。 |
| 事務局 | 次回、第2回審議会の骨子案で協議する予定である。 |

| | |
|--------|--|
| 議長 | 県で計画等を策定する際も SDGs との関係を示している。次期計画もよろしくお願 いしたい。 |
| 高見委員 | 目標値は分かるが、実際の市民に向けての施策はないのか。 |
| 事務局 | 骨子案で予定しているので、第2回で協議していただきたい。 |
| 議長 | 具体的な施策が必要であり、数値だけあげればいいという問題ではない。市民、事 業所、行政が一体となって取り組んでいかなければならないので検討して欲しい。 |
| 大場委員 | 市民に分かりやすい目標が大事だと思われる。ライフスタイルの差もあるとは思 うが、少なくとも県庁所在地の市の中で山形市が日本一となって欲しい。 先日公表があり、山形の大気汚染物質は低いと言われ、山形県は日本一空気が綺麗 であるとPRがあり嬉しくなった。合わせてごみも少ないとなれば、非常に誇れるこ とである。場合によっては、分かりやすい目標として、日本一市民一人一日当たりの 家庭系ごみの量の少ない県庁所在地を目指すなどの表現も検討して欲しい。 |
| 新藤委員 | 山形県の空気日本一は、四年連続である。 |
| 福島委員 | 目標値の設定の根源はどこにあるのか。空気を綺麗にするためか。 環保協の課題として、集積所を統一や置く場所の問題がある。 |
| 原田氏（県） | 県でも廃棄物の計画を策定しており、「第3次山形県循環型社会形成推進計画」の 中で「全国一ごみの少ない県を目指して」と基本目標に掲げている。山形市も計画策 定の際には沿った形で取り組んで欲しい。 集積所の問題や管理については、管理がされないと海ごみにも繋がるため、計画の 中で県も触れている。 |
| 議長 | 活発な意見や質問が出たが、盛り込みながら計画を策定して欲しい。 |

- ・（6）その他について、事務局より今後のスケジュールの説明を行った。

以上